

地 層

9月24日（水）6年理科「大地のつくり」

第3回目の校内研究授業を行いました。学習課題は、「火山活動による地層のでき方をまとめる」ことでした。噴火の繰り返し、溶岩の流れ、火山灰の堆積をオクリンクのポートフォリオに時系列で整理し、班で読み合いながら考察の質を高める学習です。

「地層から噴火の歴史が分かる！」という子供たちの言葉が聞こえてきました。時間の見方を島の地形と重ねて語る発表に、学びの層の厚みを感じました。

三宅島の実態に合わせ、単元の並びを「火山→流水」に組み替えたことは、火山島であるからこそ、より身近な問いとして「自分ごと」に引き寄せることがねらいでした。それは、私たちの授業観察の視点の一つでもありました。

さて、実際の授業ではどうだったでしょうか。学習用端末であるいわゆる「文具」が考察の質を高める手段となっていたでしょうか。授業者は子供の説明をその場の言葉で受け止め、根拠の所在を確かめ、図と語句の対応を整えつつ、次の問いに橋をかける。その往還が、考察の粒を揃えていくことを目指しました。



授業後の研究協議会では、東京都教育庁総務部デジタル推進課垣原 健 統括指導主事からご指導いただきました。「端末を文具のように使う」というキーワードを土台に、語彙と根拠を授業内にためる設計、デジタルのポートフォリオで途中経過を可視化して共同編集を生むこと、そして「分析（比べる・つなぐ）⇄発信（言葉と図で表す）」を明確に設計した点が、本時のねらうべきところであることをご指導いただきました。

本校は、情報活用能力育成研究指定校の2年目となります。端末を便利な道具ではなく学びの文具として位置づけることで、情報活用能力の段階的育成が日常の授業の中で回り出す。その方向性は、都の取組や「これからの学び」のモデルとも重なります。目指していく姿であると認識を深める機会となりました。

今回見えた情報活用能力育成の視点における授業改善の一步は、次の三つ。

- ① 地域のリアルから「自分の問い」を立ち上げる題材設計
- ② 観察→実験→考察のプロセスをポートフォリオで可視化し、班で磨く学びの常態化
- ③ 比較の観点や根拠をもった構成など「考察の型」を共有資産として定年化

大地は、気の遠くなる時間の重なりで形を成しました。子供たちの学びもまた、問いと対話の層を静かに積む営み。今日、教室に加わった学びの一層を大切に、明日の授業へとつないでいきます。

さて、お腹がグーと地響きを鳴らしています。文章の校正を重ねているとあっという間に、給食の時間となりました。

そして…ペロリと平らげてしまいました。

「麦ごはん・ひじきふりかけ・野菜ゴロゴロ煮・味噌汁・牛乳」
今日も美味しくいただきました。

ごちそう さまでした。

